

ベルギー病理学会(Ghent Pathology 2025)派遣報告書

国際医療福祉大学成田病院 小無田美菜

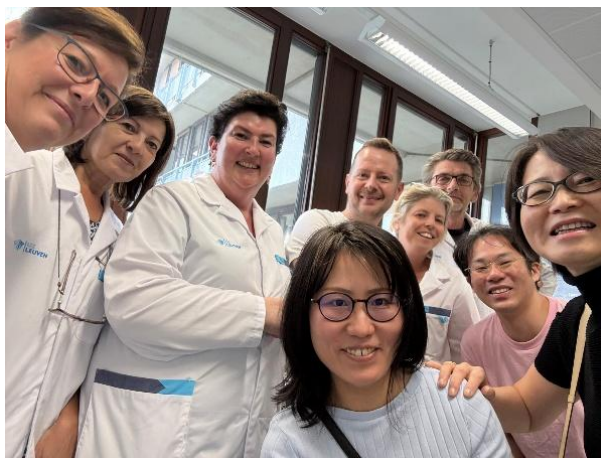
2025年6月24日から26日まで、ベルギーのアントワープで行われた Ghent pathology 2025 (BSP-BDIAP-PathSoc の共同開催)に、福島県立医科大学医学部 基礎病理学講座の小林信先生と神戸大学医学部附属病院 病理診断科の神保直江先生とともに派遣していただきました。このような素晴らしい機会を与えていただきました、小田義直理事長、都築国際交流委員長をはじめとする関係各位の先生方に深謝いたします。

Ghent pathology では、診断病理と研究のバランスがとれたプログラム構成で、大変勉強になりました。また、小林先生と神保先生のご発表もとても好評で、活発な質疑応答が行われました。小林先生と神保先生は、会期中も積極的にいろんな先生方と交流を深め、最終日には新しく友人となられた先生方とコーヒーを飲みながら談笑されていた様子が大変印象的でした。

また今回は、国際交流委員会の都築委員長の了解を得て、私が以前勤務していたベルギー最大の大学病院である UZ Leuven ならびにアントワープ市内にある St.Lucas 病院 の病理部門の見学も併せて行いました。日本と異なる病理システムに小林先生と神保先生も大変興味をもって、いろんな質問をされていました。

私自身は、6年ぶりの Ghent pathology への参加となり、旧知の友人や先生方、かつての教え子たちと再会でき、とても心温まる時間を過ごしました。

ベルギー滞在中は、毎日刺激的でとても充実した日々でした。小林先生と神保先生と一緒にできて本当に良かったです。このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。



UZ Leuven 病理

技師さん達と一緒に記念撮影



St.Lucas 病院

左から神保先生、Katrien,小林先生、
筆者

Katrien(病理医)は空手の黒帯で、空
手サークルを作り、ベルギー人に空手
を教えています。



右から Pathological Society
(PathSoc)の Meeting Secretary
Prof. Mohammad Ilyas、

著者、

BDIAP (IAP-British division)の
President

Dr. Jan von der Thüsen



St.Luc 時代の教え子(左 Eric,
右 Alex)と一緒に。

2 人とも現在、基幹病院の病理部
門の責任者として病理診断とラボ
運営を行っています。

今でも肝胆膵病理を好んで診断し
ていると言ってくれて、とても嬉し

かったです。